

# 今井氏庭園・半田氏庭園・宮澤氏庭園 登録の内容

## 1 今井氏庭園

江戸時代に真田氏の城下町として発展した松代には、当時の計画的な街路・町割とともに、「カワ」「泉水路」「セギ」から成る一連の水系が良好に遺存し、城下町の生活と密接に関連して多様な役割を果たしてきた。そのうち、今井氏庭園・半田氏庭園・宮澤氏庭園は、神田川から取水された一つの「泉水路」により連続する一群の庭園で、日常的な「生活の庭」であり、極めて質素な意匠・形態に特質がある。そのうち、今井氏庭園では、昭和15年(1940)に改修されたことが伝えられ、昭和44年(1969)には園池の一部を埋めて離れが新築されたが庭園は残された。マツ・サンシュなどの樹間からは、園池を越えて象山を望むことができる。一つの「泉水路」で繋がる庭園として松代の造園文化の発展に寄与した意義深い事例であり、造園文化に果たす役割は大きい。



## 2 半田氏庭園

江戸時代に真田氏の城下町として発展した松代には、当時の計画的な街路・町割とともに、「カワ」「泉水路」「セギ」から成る一連の水系が良好に遺存し、城下町の生活と密接に関連して多様な役割を果たしてきた。そのうち、今井氏庭園・半田氏庭園・宮澤氏庭園は、神田川から取水された一つの「泉水路」により連続する一群の庭園で、日常的な「生活の庭」であり、極めて質素な意匠・形態に特質がある。そのうち、半田氏庭園には、明治初期に養鯉池などがあったことが知られている。昭和38年以降に半田氏の所有となり、それ以降は大幅な庭園の改築はなかったとされる。主屋南側の庭園中央には園池があり、その南側の築山には三尊石が組まれている。一つの「泉水路」で繋がる庭園として松代の造園文化の発展に寄与した意義深い事例であり、造園文化に果たす役割は大きい。



## 3 宮澤氏庭園

江戸時代に真田氏の城下町として発展した松代には、当時の計画的な街路・町割とともに、「カワ」「泉水路」「セギ」から成る一連の水系が良好に遺存し、城下町の生活と密接に関連して多様な役割を果たしてきた。そのうち、今井氏庭園・半田氏庭園・宮澤氏庭園は、神田川から取水された一つの「泉水路」により連続する一群の庭園で、日常的な「生活の庭」であり、極めて質素な意匠・形態に特質がある。そのうち宮澤氏庭園では、中央の園池の北岸に礼拝石が据えられ、南岸の築山とその周辺にマツ、ヒノキ、コウヤマキなどの木立がある。また、庭園の西側には畑があり、両者の間は生垣で隔てられている。一つの「泉水路」で繋がる庭園として松代の造園文化の発展に寄与した意義深い事例であり、造園文化に果たす役割は大きい。

